



TITLE:

<大會抄録>「吐蕃」「羊同」の名稱について

AUTHOR(S):

佐藤, 長

CITATION:

佐藤, 長. <大會抄録>「吐蕃」「羊同」の名稱について. 東洋史研究
1975, 34(3): 457-457

ISSUE DATE:

1975-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/153581>

RIGHT:

した世祖の中統五年（一二六四）、三等九甲の戸等制と鼠尾簿にも、
とづく差發の科徴が定められたが、この戸等制については、元が中
國本土に支配を擴大して行く過程において、宋代戸等制支配を繼承
し、あらたな鄉村支配を展開して行った側面からも、捉えなおして
みる必要があるように思われる。

戸等は、事産・丁産・氣力産業・田の多寡・税粮の多寡等にもと
づいて、上中下三等に分けられ、和雇・和買・一切の雑泛差役、更
には、助田や種時の法の賦課にまで適用されている。この間の戸等
とももの差發との對應關係、鼠尾簿作成との關係について、宋
代鄉村の戸等制支配と關連させて考えてみたい。戸等と賦課對象と
の對應關係は、宋代のように明確ではないが、元代でも一定の對
應關係が確認出来る。江西では、里正・主首の當役基準は税粮一石
以上であったし、その他、弓兵・獄卒・祇候・曳刺・舖兵等につい
ても、三石一石、二石一石、一石一〇・五石等、苗税額基準で
賦課されている例もある。これら税粮額と戸等との對應關係も考え
てみたい。

「吐蕃」「羊同」の名稱について

佐藤 長

「吐蕃」という語が何を寫し、何を意味したかは現在不明であ
る。Rockhill は Stod bod（高いチベット）の音譯とし、最近、
山口瑞鳳氏は Lho phyawa（南のチャー族）の音訳とした。しか
しこれらは共に、「吐蕃」なる語が唐に傳わる中間に吐谷渾が介在

したことを考えていない。恐らく「吐蕃」は吐谷渾の中央チベット
に對する呼稱で、それが唐に傳えられたものと考えられる。又「羊
同」も吐蕃の西にあると云われるが、ギャンツェ中心のツァン地方
を指しているに相違なく、大羊同國はギャンツェ中心地帯、小羊同
國はシガツェ中心地帯であろう。これも實は吐谷渾語を介在させて
はじめて理解できることである。國名、種族名は直接的のみでな
く、リレー式に傳わった場合があることを忘れてはならない。

會 告

近來の諸經費高騰のため、本誌の刊行がきわめて困難な状況
となって参りました。

就きましては、本卷會費を左記の如く暫定的に改定致します
ので、御了承下さいますようお願い致します。

暫定會費（年間）

二、五〇〇圓

舊會費（年間）

二、〇〇〇圓

事情御賢察の上、今後とも、從來に倍する御支援、御協力を
賜りたくお願い申し上げます。

東洋史研究會